

魅力発信！えひめ農業

令和7年5月

【お知らせ】

魅力発信！えひめ農業は、県ホームページ(※1)で、県下全地区の内容について、閲覧できます。

※1 掲載場所：ホーム＞仕事・産業＞農業＞農産園芸課＞農産物の生産振興

※2 この動向は、5月中に各普及拠点から報告のあったものをとりまとめたものです。

～愛媛県農林水産部農業振興局農産園芸課～

〒790-8570

愛媛県松山市一番町4丁目4-2

(TEL) 089-912-2558

(FAX) 089-912-2564

<http://www.pref.ehime.jp/noukei/>

目次

目次	1
5月のトピックス5選	3
第1回就農初期農業者研修会を開催	3
第10回上浦地区早期復興ワーキングチーム会議を開催	3
次世代かんきつ整備園強化事業で春季緑肥作物による草生栽培実証を開始	4
令和7年度キウイフルーツ花粉の生産状況	4
温州みかんの摘果シートによる摘果効果や省力化の実証を支援	5
えひめ農業	6
■東予地方局 地域農業育成室	6
新居浜特産白いものの品種試験スタート	6
環境に優しい米づくりを目指して紙マルチ田植え機を実演	6
新規就農者が家族経営協定を締結	7
■東予地方局 地域農業育成室 四国中央農業指導班	7
茶産地で一番茶の収穫が始まる	7
やまのいもの省力支柱栽培実証を開始	8
水稻・さといも・やまのいもの栽培講習会を開催	8
■東予地方局 産地戦略推進室	9
コーヒー栽培とぶどう根域制限栽培の説明会を開催	9
最新のいちご育苗技術を学ぶセミナーを開催	9
東予地域における花木苗の安定供給に向けて	10
国内の発酵茶で交流活動	10
■今治支局 地域農業育成室	11
単当収量増加を目指すいちごオンラインセミナー研修会の開催	11
馬島の花き農家が県オリジナルかんきつ栽培に経営を転換中	11
■今治支局 地域農業育成室 しまなみ農業指導班	12
低コスト簡易防鳥ネット設置研修会を開催	12
レモン生産方針と有機栽培技術説明会を開催	12
■今治支局 産地戦略推進室	13
タカミメロンの果実肥大化を目指した栽培講習会を開催	13
中古ハウス情報バンク（仮称）設置に関する協議を開始	13
■中予地方局 地域農業育成室	14
温存植物の併用により天敵が速やかに定着	14
■中予地方局 地域農業育成室 伊予農業指導班	14
初開催!「ななおれ梅組合」で“ひめカレ学生”が実務研修	14
■中予地方局 地域農業育成室 久万高原農業指導班	15
久万高原トマト部会が硬玉系新品種を本格導入	15

雑穀の生産振興や消費拡大を協議	15
■中予地方局 産地戦略推進室	16
そらまめ産地の強化に向け取組みを開始	16
■南予地方局 地域農業育成室	16
「ひめの凜」認定栽培者講習会を開催	16
■南予地方局 地域農業育成室 鬼北農業指導班	17
施設きゅうり・更新つる下ろし栽培の先進地研修を実施	17
■南予地方局 地域農業育成室 愛南農業指導班	17
「河内晩柑」を活用した消費者交流活動	17
無人航空機防除の普及拡大を目指して	18
■南予地方局 産地戦略推進室	18
つるむらさきの生産と販売支援の状況	18
「媛小春」の安定生産に向けて実証試験を開始	19
■八幡浜支局 地域農業育成室	19
新規就農者への巡回指導	19
着果過多対策を目的とした摘果剤の使用について指導	20
■八幡浜支局 地域農業育成室 大洲農業指導班	20
「農家の若造」今年度は中学生とサツマイモづくりに挑む！遊休農地再生プロジェクト	20
キウイフルーツの花粉使用量削減に向けた	21
現地実証	21
■八幡浜支局 地域農業育成室 西予農業指導班	21
女性農業者の活躍を目指して	21
有名パティシエの産地アテンド in 城川	22
■八幡浜支局 産地戦略推進室	22
西予地区のさといもの栽培管理の意識統一	22
■農産園芸課 高度普及推進グループ	23
麦の採種ほ審査（Ⅱ期）の実施	23

5月のトピックス5選

標 題	第 1 回就農初期農業者研修会を開催		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和 7 年 5 月 28 日	場所	東予地方局西条第二庁舎	
指導対象	新規就農者、就農予定者等（8 人）	連携機関	西条市	
普及指導内容	○就農初期農業者を対象に、地域の担い手の育成や農業経営に必要な基礎知識・基本技術の習得支援を目的とした研修会を開催した。 ○当室からは、「普及指導員の役割」「夏野菜栽培のポイント」「病害虫の種類と特徴」についての説明を行った。			
結果と今後	○出席者からは「きゅうりがお盆前に暑さで枯れてしまうことがあるが、何か対策はあるか」など多くの質問があり、意欲的に参加している様子が見えた。 ○本研修会は、年 8 回の開催を予定しており、今後も就農予定者等へ参加を積極的に呼びかけ、若手農業者の経営知識の習得や交流促進を図る。			



普及機関の役割について説明



きゅうり・さといも栽培の講習



トマト栽培の魅力を講習

標 題	第 10 回上浦地区早期復興ワーキングチーム会議を開催		機関名	今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班
年月日	令和 7 年 5 月 29 日	場所	JA おちいまばり しまなみ共選	
指導対象	上浦地区再編復旧関係機関（26 人）	連携機関	JA おちいまばり、今治市、東予地方局農業振興課、農村整備課	
普及指導内容	○西日本豪雨被災後の再編復旧工事や営農計画の進捗状況を報告するとともに、出水期に備えた土壌流亡対策、スマートアグリ推進事業の取組内容について協議した。 ○園地では、緑肥作物の栽培による土づくり、園地の土壌流亡対策として実施しているソルゴーの生育とともに順調であることを確認。 ○今年度も畑面植生シート工を実施するなど関係機関が連携し早期園地整備に取り組んでいく。 ○また、今年度は、未来型果樹園地 PR 動画を作成する予定であり、関係機関でチーム編成し、秋の完成に向けて取り組むこととした。			
結果と今後	○土壌流亡発生時の対応や関係機関での連絡体制の確認を行うとともに、今年度末の苗木の植え付け、各種事業の効果的な実施に向けて計画を共有し、意識統一を図った。			
  左：関係機関が進捗等を状況共有 右：今年度改良場所の確認				

標 題	次世代かんきつ整備園強化事業で春季緑肥作物による草生栽培実証を開始		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和 7 年 5 月 1 日（緑肥作物播種） 5 月 28 日（スマート機器実演）	場所	松山市・砥部町の基盤整備園	
指導対象	かんきつ生産者（11 人）	連携機関	JA えひめ中央、農林水産研究所、 中予局農村整備第一課・第二課	
普及指導内容	○中予地区で進んでいる樹園地の基盤整備園のうち、今春造成工事が完了して農家に引き渡された下難波地区ほか計 4 地区・11 園地において、テフグラスやソルゴーなどの播種を行い、緑肥作物を活用した土づくりに関する実証を開始した。 ○今回の取組みは、地力の乏しい基盤整備園において緑肥作物による土づくりが、土壌環境の改善や土壌侵食防止にどの程度有効か把握・検証するもの。 ○また、スマート農業を推進するため、気温や雨量など 7 項目をモニタリングできる気象センサーを下難波地区に設置するとともに、関心のある農家を対象として、リアルタイムにデータ取得できる専用アプリの使用等を説明する実演会を開催した。			
結果と今後	○地表面の被覆状況や土壌の保全、かんきつ苗木の生育などを調査し、土壌改善・保全に向けた土づくり対策を検討する。 ○気象モニタリング機器を活用した効果的な栽培管理について指導する。			



は種の状況



発芽したソルゴー



アプリの使用について説明

標 題	令和 7 年度キウイフルーツ花粉の生産状況		機関名	南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班
年月日	令和 7 年 5 月 11 日～23 日	場所	松野町内 各地	
指導対象	キウイフルーツ花粉生産者（3 人）	連携 機関	松野町、株式会社松野町農林公社、 果樹研究センター	
普及指導 内容	○国内初の「キウイフルーツ花粉ビジネス」に取り組む松野町で、花蕾の収穫開始前に各園地を巡回し、収穫適期の見極め、収穫前後のかいよう病防除に加え、新梢の過繁茂により花蕾が見えにくい園地では、新梢の先端を摘心する対策等を指導した。 ○また、適期での花蕾収穫量を増やすため、今年から、夕方に収穫後冷蔵保存し、翌朝に出荷する体制を整えた。			
結果と 今後	○せん定や肥培管理の徹底、摘心の実施、出荷受入体制の見直しにより、花粉生産量は約 3.5 kg と前年の 1.7 倍になった。 ○また、「摘心により視認性が向上し、収穫効率が上がった」との意見も聞かれた。 ○今後は、早期成園化や収穫作業の省力化に向けた管理技術、来年度以降の収穫出荷体制等を検討し、花粉生産量のさらなる増加を目指す。			



左：花蕾を収穫する生産者
中：収穫された花蕾
右：花粉精製作業

標 題	温州みかんの摘果シートによる摘果効果や省力化の実証を支援		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和7年5月1日、19日	場所	八幡浜市真穴	
指導対象	真穴同志会青年部会員（10人）	連携機関	-	
普及指導内容	○真穴同志会青年部は、着果過多となることが予想される令和7年産の温州みかんにおいて、摘果シートの被覆による摘果効果や省力化についてプロジェクト活動を実施することになり、当室はその活動を支援した。 ○これまでに摘果シートを活用したことのある生産者との情報交換を行った上で、2か所の実証ほを設置し、5月1日に着花状況を調査、19日に着果過多樹の樹冠上部に摘果シートを被覆した。			
結果と今後	○シートの被覆時間は1樹あたり約4分であり、樹冠上部摘果よりも大幅な作業時間の短縮が見込まれた。 ○今後、被覆時期別に生理落果率等を調査し、効果的な被覆方法を確立する。 ○プロジェクトの成果は、来年3月に開催予定の八西地区青年農業者プロジェクト活動発表会で発表する予定。			

【摘果シート】

シートを樹冠上部に被覆し、保温調整と上部遮光効果により生理落果を促進させ、摘果作業の省力化を図るもの。また、落果後に発生する夏芽が翌年の結果母枝として成長することで、隔年結果の是正にもつながるとされているが、比較的新しい技術で普及には至っていない。



摘果シートを被覆



摘果シート被覆後

えひめ農業

標 題	新居浜特産白いもの品種試験スタート		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和7年5月7～8日、21日、29日	場所	新居浜市角野及び大島	
指導対象	白いも生産農家（2人）	連携機関	新居浜市	
普及指導内容	○新居浜市と連携し、新居浜市大島で生産されている白いも「七福いも」の生産拡大を推進するため、品種や定植時期等を検討する実証を開始した。 ○本年度からは、市の要請を受け市内陸地部でも生産拡大を推進するため、当室と市が採苗した芋づる8品種を大島と市内陸地部の3か所に定植した。 ○実証ほ場には、温湿度、土壌温度、体積含水率、土壌EC、日射量を測定する気象センサーが設置されており、データを基にした栽培管理や分析が可能となっている。			
結果と今後	○6月2日には関係機関による対策会議が開催されるほか、7日には親子を対象とした芋苗植え体験会が開催される予定となっており、今後も市と連携しながら白いも産地の拡大、ブランド化を推進する。			



市内陸地部の品種試験ほ場



大島の品種試験ほ場



大島設置の気象センサー

標 題	環境に優しい米づくりを目指して紙マルチ田 植え機を実演		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和 7 年 5 月 13 日	場所	西条市丹原町川根	
指導対象	川根集落営農組合及び減農薬栽培者 (12 人)	連携 機関	三菱農機販売株式会社 JA 周桑	
普及指導 内容	○組合は水稻の減化学農薬栽培に取り組んでおり、昨年、西予市で紙マルチ田植機に関 する研修を受けた組合員から、当室に実演会開催の要望があったもの。 ○メーカー指導の元、組合オペレーターがコシヒカリ約 50a の田植えを行った。			
結果と 今後	○当日は水田 50a の作業で 4 時間を要した。 ○紙マルチはロールが重く、セットに労力が必要であったものの、田面に密着しており 抑草効果は期待できる。 ○今後、生育状況や雑草の発生状況等を確認しながら有効性を検証し普及に繋げる。			
 田植え機操作の説明  マルチを敷きながら田植え  田植え直後の紙マルチ				

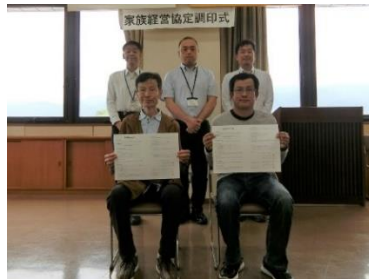
標 題	新規就農者が家族経営協定を締結		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和 7 年 5 月 26 日	場所	東予地方局西条第二庁舎	
指導対象	家族経営協定農家（1 戸）	連携機関	西条市、西条市農業委員会	
普及指導内容	○昨年就農した農業者とその父親から、経営安定のために業務分担を明確化したいとの相談を受け、当室では、家族間での話し合い等の支援を行っており、このたび家族経営協定を結ぶこととなったことから、締結式を開催した。 ○協定書には、両者の役割分担を始め、休日の取得、定期的な見直し等が盛り込まれており、当日は、市、農業委員会、当室の立会いで署名が行われた。			
結果と今後	○今回の締結により、西条市での締結数は節目となる 50 件目を迎えた。 ○今後も若手農業者がより意欲をもって経営に取り組めるよう家族経営協定の締結を推進する。			



家族経営協定調印式



署名する新規就農者親子



協定書を手に記念撮影

標 題	茶産地で一番茶の収穫が始まる		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和 7 年 5 月 24 日	場所	四国中央市新宮町	
指導対象	茶栽培農家（3 人）	連携機関	四国中央市	
普及指導内容	○新宮地区では、昨年の異常高温による干害や春先の霜等により、例年より 1 週間遅く、5 月 3 日から一番茶の収穫を開始した。 ○収穫作業は、地区内の茶工場や農作業支援センター等の茶刈取作業班が連携し効率的に行っているが、収穫量は例年より 2 割程度少なくなる見込み。 ○指導班では、茶産地のブランディング等を進めており、本年産はゆっくり育った芽重型で、実の詰まった香り豊かで旨味の強い茶に仕上がりと、販売が期待されている。			
結果と今後	○現在、「儲かるモデル産地育成システム確立推進事業」への応募を支援しており、県内外へうま茶の PR 活動を積極的に進めていく予定。 ○また、うま茶のファン層を広げるため、産業祭等でお茶のある生活を提案しつつ、インバウンドを対象としたアンケート調査に協力し、需要拡大に向けた活動を支援する。			
				
茶刈取作業班による一番茶収穫				

標 題	やまのいもの省力支柱栽培実証を開始		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和7年5月12日、28日	場所	四国中央市寒川町、土居町	
指導対象	やまのいも生産者（2人）	連携 機関	JA うま	
普及指導 内容	○やまのいも栽培の省力化を図るため、管内2か所でアーチパイプときゅうりネットを利用した省力支柱栽培の実証を開始した。 ○昨年度の実証では、労働時間の短縮は図れたものの一部のアーチパイプが強風で倒伏したため、今年度は、設置方法等を見直し、実用化に向けた実証を再度行っている。			
結果と今後	○今後、つる誘引、つる直し、パイプ撤去等に要する労働時間調査や、やまじ風に対する耐久性を確認するとともに、生育状況、収量、品質等を調査し、実用化を検討する。			
  左：アーチパイプを設置した 実証ほ場（土居町） 右：アーチパイプにきゅうり ネットを設置（寒川町）				

標 題	水稻・さといも・やまのいもの栽培講習会を開催		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和7年5月15日、16日	場所	四国中央市川之江、三島、豊岡、土居	
指導対象	JA うま特産部会・米麦部会員 (77人)	連携機関	JA（うま、全農えひめ）	
普及指導内容	○当指導班では管内4か所で、水稻、さといも、やまのいもの今後の管理について、特にかん水管理や病虫害防除対策を重点的に指導した。 ○また、気温の上昇とともに熱中症事故も想定されることから、事故の現状や予防ポイント、熱中症対策アイテムを活用した対策の実施等について指導した。 ○JA 全農えひめからは、「あきたこまち」に代わる品種として推進している良食味多収で高温耐性品種の「にじのきらめき」について、担当者が品種特性等の説明を行った。			
結果と今後	○2日間で計77人が出席し、病虫害防除を中心に質疑応答も活発に行われ、部会員の生産に対する意欲がうかがえた。 ○今後、7月には1日営農相談を開催する予定で、水稻、さといも、やまのいもの生産を支援する。			





左：JA うま土居中央支店

右：JA うま豊岡経済センター

標 題	コーヒー栽培とぶどう根域制限栽培の説明会を開催		機関名	東予地方局産地戦略推進室
年月日	令和7年5月16日	場所	東予地方局西条第二庁舎	
指導対象	農家（15人）	連携機関	(株)GMUS、(株)ゴールドラッシュ 愛媛大学農学部	
普及指導内容	○当室では、バラなどの栽培終了に伴う遊休ハウスの有効活用策として、国内でも注目されつつある「コーヒー栽培」とトライアングルエヒメで実証された「ぶどう根域制限栽培」を推進しており、これらに関心を持つ農家を対象に、説明会を開催した。 ○「コーヒー栽培」については、(株)GMUSから、国産コーヒーの市場性や収益性の説明を、また、「ぶどう根域制限栽培」については、同技術を開発した(株)ゴールドラッシュからより、同社の栽培システムの概要と利点について紹介を受けた。 ○さらに、ぶどうの共同研究を行っている愛媛大学農学部から、農業におけるスマート技術の活用と今後の展望、持続可能な農業の実現について講話があった。			
結果と今後	○説明会后、参加した農家3人より、「ぶどう根域制限栽培」の導入意向が示されたため、「デジタル実装成果横展開支援事業」を活用し、導入支援を進める。 ○一方、コーヒーについては、苗木の導入コストの高さが課題となり、即時の導入希望者は見られなかったが、温暖化対策の有望な転換品目として引き続き推進する。			
  左：国産コーヒーの魅力について説明 右：定植2年目から収益が見込める 根域制限栽培について説明				

標 題	最新のいちご育苗技術を学ぶセミナーを開催		機関名	東予地方局産地戦略推進室
年月日	令和7年5月16日	場所	東予地方局西条第二庁舎	
指導対象	若手いちご農家（9人）	連携機関	JA（周桑、えひめ未来） 東予局地域農業育成室、農林水産研究所	
普及指導内容	○昨年、育苗期（夏季～秋季）の異常高温により、定植苗の不足や、収穫開始が大幅に遅延する事例が多発し、若手いちご農家を中心に、いちごの基本的な生理生態や、高温対策、最新の育苗技術を学びたいとの強い要望があったことから、当室では、いちごの主産県等のトップ農家を指導している(株)デルフィージャパンが講師を務めるオンラインセミナーを開催した。 ○セミナーでは、葉面積を基準とした遮光手法、炭そ病の発生や開花のバラつきを抑える「ゼロ枚育苗法」など、最新の育苗技術について説明があった。 ○農家の理解を深めるために、普及指導員も適宜、内容の補足解説を行った。			
結果と今後	○農家からは、「ここまで論理的で、かつ具体性の高い指導は初めてだ。」「学んだことをぜひ実践してみたい。」などの声が聞かれた。 ○本セミナーで学んだ最新技術は、JAの育苗講習会や個別巡回等でも農家に紹介するとともに、実証試験でその効果を検証する。			
 左：セミナーを受ける農家 右：管内の5月の育苗状況				

標 題		東予地域における花木苗の安定供給に向けて		機関名	東予地方局産地戦略推進室
年月日		令和7年5月15日		場所	県立丹原高校 農場
指導対象		花木生産者（8人）		連携機関	県立丹原高校、JA（周桑、えひめ未来、おちいまばり）
普及指導内容		○東予地域では、花木の栽培面積が急速に拡大している一方で、苗木の供給が追いついていないことから、当室では、生産者による苗木生産の支援を目的とした挿し木講習会を開催した。 ○講習会では、県立丹原高校園芸科の生徒が花木のプロジェクト研究の成果を発表するとともに、生徒は挿し木の実習にも講師として参加し、品目ごとに穂木の調整やその後の管理について説明した。 ○実習では、参加者がメラレウカ、ピットスポラムなどの枝を用いて、成長点を確認しながら約8cmに穂木を調整し、育苗トレイに挿し木を行った。			
結果と今後		○今年から花木の栽培を始める農家は、「挿し木は手軽だが、奥が深く、技術が必要と感じた」と話すなど、挿し木に対する理解と関心の高まりが見られた。 ○当室では、今後も苗木の安定供給体制の構築に向けて、関係機関と連携し、地域全体で花木産地づくりを支援する。			
				左：丹原高校生の説明を受ける参加者 右：挿し木を行う参加者	

標 題	国内の発酵茶で交流活動		機関名	東予地方局産地戦略推進室
年月日	令和7年5月10日	場所	東京農業大学	
指導対象	石鎚黒茶協議会（5人）	連携機関	—	
普及指導内容	○東京農業大学にて開催されたシンポジウム「日本の微生物発酵茶の世界」に、石鎚黒茶協議会員とともに参加した。 ○シンポジウムでは、石鎚黒茶の微生物について研究を行う産業技術総合研究所の堀江祐範氏の研究発表のほか、高知県の碁石茶、徳島の阿波晩茶に関する発表も行われ、日本各地の発酵茶に関する理解を深める機会となった。 ○試飲会では、協議会員らが石鎚黒茶をふるまいながら、その製造方法や製造者団体等について説明を行い、他の発酵茶製造団体との交流を行った。			
結果と今後	○堀江祐範氏には、今年度も石鎚黒茶の製造に関わり、引き続き研究を進めていただけることとなった。 ○協議会は、10月に西条市内で石鎚黒茶の試飲会を開催予定としており、今回のシンポジウムで交流を深めた碁石茶や阿波晩茶の製造者にも参加を呼びかけ、四国の発酵茶をPRしたい意向。 ○当室では、黒茶の魅力を広く発信できるよう活動を支援していく。			
  左：シンポジウムのパンフレット 右：石鎚黒茶を試飲				

標 題	単当収量増加を目指すいちごオンラインセミナー研修会の開催		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和 7 年 5 月 16 日	場所	JA おちいまばり 乃万支店	
指導対象	管内いちご農家・農協指導員（13 人）	連携機関	（株）デルフィージャパン JA おちいまばり	
普及指導内容	○管内いちご農家を対象に単当収量増加を目指した「いちごの環境制御技術」について、オンラインセミナー研修会を開催した。 ○当研修会は年 10 回の予定で、育苗や病害虫の管理、高温対策等、いちごの環境制御に関する知識を習得するほか、収量を増やすための戦略について学ぶ機会としており、今回は、ランナー受けが始まる 6 月を前に、いちごの育苗管理等に係る研修を行った。 ○当室では、オンラインセミナー開始前に、いちごの収量を増加させるために必要な考え方である日射量 (W/m ²) や葉面積指数 (LAI) について説明し、本研修会の理解促進を図った。			
結果と今後	○農家からは、「具体的な管理方法が数値で示され勉強になる」との感想が聞かれ、今後の育苗管理技術向上が期待される。			



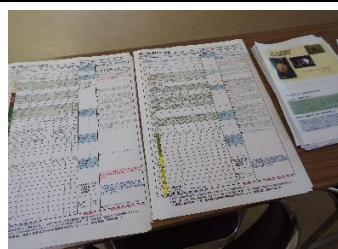


左：日射量について具体例を説明

右：オンラインセミナーを受講する農家

標 題	馬島の花き農家が県オリジナルかんきつ栽培に経営を転換中		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和 7 年 5 月 7 日	場所	今治市波止浜（馬島）	
指導対象	愛媛果試第 28 号生産者（1 人） 営農指導員（2 人）	連携機関	JA おちいまばり	
普及指導内容	○当室は、令和 6 年 5 月から花き栽培を転換してかんきつ栽培を始めた馬島の農家を定期的に訪問して栽培指導を実施している。 ○今回は、昨年度末にせん定を行った「紅まどんな」の発芽・着果状況を確認し、今後の新梢管理を指導した。 ○本品種は生育旺盛で夏季に過繁茂になり、併せて枝梢がしなやかで下垂しやすいため、樹勢の維持、高品質果生産、次年度の結果母枝確保の上で夏季の新梢管理がカギと、ポイントを指導した。			
結果と今後	○当該農家は、昨年度末のせん定を徹底しており、収穫時 3 L に到達しそうな幼果が多数着生し、なおかつ次年度の結果母枝となる新梢も確保されており、生育は順調。 ○当室は、引き続き県オリジナル品種の栽培支援を行うとともに、農業者の技術向上を支援していく。			
 「紅まどんな」の新梢管理を指導  「紅プリンセス」苗木の管理指導  最終出荷を控えたスイートピー				

標 題	低コスト簡易防鳥ネット設置研修会を開催		機関名	今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班
年月日	令和7年5月22日	場所	今治市宮窪町友浦	
指導対象	かんきつ生産者、関係機関職員 (20人)	連携 機関	JA おちいまばり、今治市	
普及指導 内容	○近年、鳥類による農業被害が増加する中、一般的な防鳥ネットの設置はコストが高いことから、低コスト簡易防鳥施設の設置研修会を開催した。 ○当指導班では、各地区の中心的な農家や関係機関職員に対して、令和6年度実証ほ場の視察、設置費用と防止効果について説明するとともに、隣接園地において設置実習を行った。			
結果と 今後	○参加者からは、設置作業を行いながら、設置方法の改善点や低コストな資材等について積極的な意見があり、「自園地での設置を検討したい」という声もあがった。 ○今後は、設置実習を通して明確となった改善点や意見をもとに、設置マニュアルを改良し、生産者が取り組みやすい形での対策の普及を図っていく。			
【低コスト簡易防鳥施設】 ・単管パイプと漁網を使用 ・自主施工 ・設置費用が約 1/10 ・鳥類の侵入防止効果も確認済 (R6 実証より)  低コスト防鳥ネットについて説明  ネット設置作業				

標 題	レモン生産方針と有機栽培技術説明会を開催		機関名	今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班
年月日	令和7年5月8日	場所	しまなみ農業指導班岩城駐在	
指導対象	レモン生産者（14人）	連携 機関	㈱岩城物産センター、JA おちいまばり	
普及指導 内容	○上島町岩城でレモンの減農薬栽培に取り組む生産者等に対して、今期の生産方針等に係る説明会を開催した。 ○指導班から、防除暦の薬剤選定意図や施用方法等を詳しく解説したほか、より安全・安心なレモンの生産技術として、天敵農薬と JAS 資材を組み合わせた有機レモン栽培の実証成果を報告し、省力・低コストに係る機運醸成を図った。			
結果と 今後	○出席者からは、「農薬代はどれくらい減るのか」「発消長を簡易にモニタリングできないか」「産地維持に不可欠な技術は積極的に取り入れたい」等多様な質問・意見が挙げられ、関心の高さがうかがえた。 ○今後も、持続可能な農業に資する技術普及を通じて、香酸かんきつ産地の維持発展を図っていく。			
 防除暦等の説明を受ける生産者  有機実証の成果を報告  配布資料（防除暦他）				

標 題	タカミメロンの果実肥大化を目指した栽培講習会を開催		機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和 7 年 5 月 8 日	場所	市内メロン生産者ハウス	
指導対象	メロン生産者（3 人）	連携機関	JA おちいまばり、（公財）園芸植物育種研究所、東予地方局産地戦略推進室	
普及指導内容	○当室では、地域特産品目として「タカミメロン」を推進しており、収益向上を図るための課題の一つである果実の肥大促進を目的とした栽培講習会を開催した。 ○講習会では、5 月（肥大期～硬化期）のハウス内温度やかん水頻度等の栽培管理及び病害虫対策を中心に説明した。			
結果と今後	○講習会後の巡回指導において、昨年作に比べて、ハウス内温度やかん水頻度が肥大期に適した管理に改善されていることを確認した。 ○また、生産者間の果実品質のばらつきも課題であるため、着果 35 日前後に講習会を再度開催し、着果 40 日後から収穫までの栽培管理の徹底を指導する予定。 ○今後も、JA 営農指導員と定期的な巡回指導を行うほか、栽培状況について本種を育種した（公財）園芸植物育種研究所や他拠点の担当普及指導員との情報交換等を進めながら、栽培管理技術の高位平準化を支援していく。			



左：果実肥大のポイントを説明

右：生産者とともにハウス内の管理状況を確認

標 題	中古ハウス情報バンク（仮称）設置に関する協議を開始		機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和 7 年 5 月 9 日		場所	JA おちいまばり 営農経済事業本部
指導対象	—		連携機関	JA おちいまばり
普及指導内容	○管内では、離農や経営転換等により、空き状態と思われる中古ハウスが散見されており、当室では JA と連携の上、遊休資産の有効活用や新規参入者の取り込み等を目的に、昨年度から中古（遊休）ハウスの実態把握（マッピング等）を進めてきた。 ○本年度は、さらに踏み込んだマッチングに取り組むこととしており、具体的な推進方法や課題に関する協議を開始した。 ○当室からは、他県での先行事例を参考に、JA ホームページでのシステム運用を念頭としたたたき台を提示した。			
結果と今後	○協議では、Google フォームでの申し込みに加えて、申込チラシを JA 広報誌や営農指導時に配布するなど、様々な周知方法や活用策や課題が抽出された。 ○今後、提出された課題等を再整理の上、先行事例の知見等を踏まえながら、本年度中の運用開始を目指してさらなる協議と指導を進めていく。			
 写真 【撮影日】 令和 6 年 8 月 22 日  左：推進上の課題等を協議 右：HP での紹介内容（予定）				

標 題	温存植物の併用により天敵が速やかに定着		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和 7 年 5 月中旬	場所	松山市全域	
指導対象	果菜類生産者（16 人）	連携機関	JA（松山市、えひめ中央）、松山市農業指導センター	
普及指導内容	○管内では、土着天敵であるタバコカスミカメを活用するため天敵温存植物（クレオメ）の機能・役割に期待しており、施設内への植付けを推進している。 ○当室では、難防除害虫（コナジラミ類、アザミウマ類）の発生が多くなる 4 月以降、果菜類生産者 16 戸（施設なす、施設トマト、施設きゅうり）にタバコカスミカメを放飼した。			
結果と今後	○天敵を放飼したすべてのほ場で定期的な目視による調査の結果、果菜類の生長点付近と温存植物に多数の吸汁痕があったことから、放飼後約 1 か月で定着したことを確認した。 ○栽培期間中は、防除効果を持続させることができるよう定着状況を確認予定。			
 施設内にクレオメを植付け  タバコカスミカメの吸汁痕（白い斑点部分）				

標 題	初開催!「ななおれ梅組合」で“ひめカレ学生”が実務研修		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和7年5月29～30日	場所	砥部町七折地域	
指導対象	農事組合法人ななおれ梅組合（8人）	連携機関	えひめ農業未来カレッジ(参加者延べ18人)	
普及指導内容	○同組合が初めてひめカレ学生を対象に収穫・選別、加工の作業を体験する実務研修を開催するに当たり、産地の魅力発信や担い手確保のきっかけづくりをコーディネートした。 ○当日は、スムーズな研修を行うため、産地概要の説明、学生へのアンケート調査を実施した。			
結果と今後	○交流会では、組合長が産地の歴史やブランド力、苦労話を語り、学生も組合長の熱い思いに応えるため、今回学んだことを同世代の若者たちにPRしていきたい等の意見が出るなど相互の親睦を深めた。 ○今後も組合の新規就農者確保に向け、ひめカレや愛媛大学等と連携し、多様な担い手育成の研修や地域間交流などの活動を支援する。			







左：組合長から熱心に説明受ける学生

中：収穫体験

右：加工体験

標 題	久万高原トマト部会が硬玉系新品種を本格導入		機関名	中予局地域農業育成室 久万高原農業指導班
年月日	令和7年5月	場所	久万高原町全域	
指導対象	久万高原トマト部会（83人）	連携機関	JA松山市	
普及指導内容	○久万高原町特産の夏秋トマトは、近年の高温化の影響により裂果・軟化玉が増加し、品質の低下を招いていることから、JA松山市久万高原トマト部会では、新品種の導入を検討している。 ○当班では JA と連携し、候補となっていた硬玉系新品種「桃太郎みなみ」の生育や収量、品質等の調査を行い、品質低下に対応できるデータが得られたことから、部会において今年度から本格的に導入することとなった。 ○5月末で早期・普通期の定植がほぼ終了し、「桃太郎みなみ」の栽培面積は全面積（13.9ha）の約3割となっている。			
結果と今後	○今後、トマト部会では新品種の栽培面積を順次増やしていき、市場のシェア獲得に向けて進んでいく。 ○当班は、新品種のより現地に適応した栽培方法の確立に向けて支援を行い、円滑な面積拡大を図る。			
 定植後の新品種「桃太郎みなみ」				

標 題	雑穀の生産振興や消費拡大を協議		機関名	中予地方局地域農業育成室 久万高原農業指導班
年月日	令和 7 年 5 月 23 日	場所	JA 松山市久万経済センター	
指導対象	久万高原ブランドづくり推進会議 構成員、県立上浮穴高校（11 人）	連携 機関	（一社）日本雑穀協会、久万高原町 JA 松山市、県立上浮穴高校	
普及指導 内容	○雑穀の生産振興及び消費拡大を目的とした「雑穀生産ステップアップ支援事業」（局予算事業）に係る推進会議を開催し、今年度の活動計画に係る協議等を行った。 ○活動計画として、新規栽培者への種苗配布や生産者の組織化、新たな雑穀商品・メニュー開発及び販売支援、町内イベント等を活用した PR 活動等に取り組む。 ○「はなこねり汁」が町内の道の駅で、「クーマカレー」が道の駅みかわで販売中である旨、当班より報告を行った。			
結果と 今後	○雑穀の生産振興を図るため、実証ほの設置や栽培研修等による技術普及に加えて、栽培希望者の掘起しを行う。 ○雑穀と他の地域食材を連動させた振興対策や県アンテナショップ等を活用した県外への PR 活動について会議で提案があり、今後検討を行う。			







左：上浮穴高校より取組紹介

中：商品化されたはなこねり汁

右：販売中のクーマカレー

標 題		そらまめ産地の強化に向け取組みを開始		機関名	中予地方局産地戦略推進室
年月日	令和7年5月21日、23日、29日		場所	JA（松山市営農センター、えひめ中央本所・南部営農支援センター）	
指導対象	そらまめ生産者（9人）		連携機関	JA（松山市、えひめ中央）、農林水産研究所	
普及指導内容	○管内のそらまめは、近年、着莢～収穫期の株の黄化等で収量が低下していることから、今年度、地方局予算「そらまめ産地強化事業」により、原因の究明や単収の向上に向けた取組みを開始したところ。 ○出荷時期を迎えたほ場を巡回し、生育状況の調査と合わせて適期収穫等を指導するとともに、JA等と来作の実証ほ設置に関する打合せを実施した。				
結果と今後	○令和7年産は天候に恵まれたこともあり、懸念されていた株の黄化の発生は確認されなかった。 ○令和8年産では、6か所（JA松山市、JAえひめ中央各3か所）で、マルチの管理や種類、追肥等の実証試験を予定する。 ○引き続き、関係機関と連携しながら単収向上に向けた対策技術の実証・普及に取り組み、そらまめ産地の維持・発展を目指す。				
  左：生育調査 右：株の黄化（R7 発生未確認）					

標 題	「ひめの凜」認定栽培者講習会を開催		機関名	南予地方局地域農業育成室
年月日	令和7年5月22日	場所	宇和島市三間町（宇和島市農村生活文化ふれあい交流館）	
指導対象	ひめの凜認定栽培者（11人）	連携機関		
普及指導内容	○「ひめの凜」の田植え時期にあわせ栽培講習会を開催し、栽培管理のポイントや、認定制度の改正により手続きやブランド区分が簡略化されたことなどを紹介した。 ○特に、近年は高温により作柄不良の傾向であるため、土づくりや肥培管理に力を入れた優良事例の紹介、高温時に葉色が低下した場合は基肥一発肥料体系でも追肥を検討すること、夜間の水温上昇を抑える水管理の実施などを提案した。			
結果と今後	○参加者からは、「気候変動の影響で栽培管理が難しい」「購入者からはおいしいと評判であるため頑張って作りたい」等、様々な意見が出た。 ○宇和島市・北宇和郡ではプレミアム区分の比率が低いため、高温障害を回避する管理を徹底するなど、良食味の特性を引き出すための技術支援を行っていく。			
 「ひめの凜」栽培管理のポイントを解説				

標 題	施設きゅうり・更新つる下ろし栽培の先進地研修を実施		機関名	南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班
年月日	令和7年5月19日	場所	西条市きゅうりほ場	
指導対象	きゅうり生産者（5人）	連携機関	JA えひめ南、松野町、株式会社松野町農林公社	
普及指導内容	○生産者の高齢化や担い手不足により、きゅうり生産量が減少する中、若手の施設きゅうり生産者を対象に、つるの誘引整枝が単純化できて雇用労働力を入れやすい「更新つる下ろし栽培」について先進地研修を実施した。 ○視察先では、栽培歴30年以上のベテラン生産者から、当地のきゅうり栽培の変遷や、作型や品種、誘引・整枝・摘心方法、病害虫対策などの説明を受けた。			
結果と今後	○参加した若手生産者は、摘心のタイミングや栽培ポイント等について積極的に質問し、作業性の向上を確認するとともに、越冬長期の促成栽培では30t/10aの収穫が可能との説明に驚いていた。 ○今後は、従来の抑制・半促成の二作体系と今回の更新つる下ろし栽培による越冬長期一作体系とを比較する実証ほを設置し、作業性や経済性を検証する。			
  左：簡易ハウスでの更新つる下ろし栽培（現地ほ場） 右：更新つる下ろし栽培の誘引の様子（現地ほ場）				

標 題		「河内晩柑」を活用した消費者交流活動		機関名	南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班
年月日	令和7年5月3日～5日		場所	愛南町御荘平城地区	
指導対象	愛南生活研究協議会（5人）		連携 機関		
普及指導 内容	○同協議会は、愛南町を訪れたお遍路さんに対して、「おせたい」として「河内晩柑」の生搾りジュースの無料提供を行うとともに、愛南町や地域の特産品、加工品等のPRを行い、消費者との交流を図った。 ○当班は、会員に対して「河内晩柑」の品種特性や調理加工方法等について資料提供や助言を行い、消費者交流活動を支援した。				
結果と 今後	○河内晩柑ジュースは3日間で360人に提供。加工品販売も好調で消費者の「河内晩柑」に対する関心の高まりが実感できた。 ○今後も、「河内晩柑」を活かした消費者交流活動を支援するとともに、地域農産物の加工品開発や販売支援に取り組む。				





左：ジュースの無料提供

右：加工品の説明

標 題	無人航空機防除の普及拡大を目指して		機関名	南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班
年月日	令和 7 年 5 月 23 日	場所	JA えひめ南南宇和営農センター	
指導対象	JA えひめ南南宇和稲作部会、無人ヘリ防除事業者（18 人）	連携機関	愛南町、JA（えひめ南、全農えひめ）	
普及指導内容	○無人航空機による防除作業の省力生産技術の普及を図るため、水稻生産者や防除作業受託事業者を参集し検討会を開催した。 ○これまで当班では、水稻防除のほか、「河内晩柑」や秋植えブロッコリーでのドローン防除実証調査を行い、有効性を確認してきた。 ○当班からは予想される出穂期や病害虫の防除時期を、町からは水稻・野菜・果樹全品目対象に創設した無人航空機による防除委託に対する補助事業を説明した。			
結果と今後	○規模拡大を進める生産者は、防除作業委託への関心は高かったが費用面が課題であったため、今回の町補助事業への期待は大きかった。 ○無人航空機による防除面積は昨年度の約 135ha に対し、今年度は大幅に増加する見込みであり、作物の生育や病害虫発生情報の提供など事業者への支援にも取り組む。			





左：町補助事業について内容を
確認する関係者

右：ドローンによる除草剤散布
実証

標 題	つるむらさきの生産と販売支援の状況		機関名	南予地方局産地戦略推進室
年月日	令和7年5月7日	場所	宇和島市内各地	
指導対象	JA えひめ南軟弱野菜部会（3人）	連携機関	JA えひめ南	
普及指導内容	○軽量で耐暑性に優れた夏場の貴重な葉物野菜である本品目は、例年並みの5月下旬から順次出荷されているが、虫害対策や低い収穫姿勢による身体的負荷の改善、知名度向上に向けた出口戦略の構築等、生産と販売の両面で課題がある。 ○そこで、ヤガ類対策として農研機構等で開発された超音波による防除技術や、収穫姿勢の改善として立体栽培実証ほをそれぞれ設置。 ○また、これまで廃棄されていた未利用部分を使用した加工品開発に向け、餃子を扱う食品加工事業者との協議を実施した。			
結果と今後	○各実証期間は9月下旬頃までとする見込みで継続して調査を行う。 ○加工品開発については、9月頃の販売開始を目指すこととなり、未利用部分の集出荷計画も含めて、7月までに再度協議を行う予定である。			





左：超音波発生装置の
設置方法を指導

右：初収穫を迎えた
立体栽培実証ほ場

標 題	「媛小春」の安定生産に向けて実証試験を開始		機関名	南予地方局産地戦略推進室
年月日	令和7年5月22日	場所	宇和島市吉田町	
指導対象	「南予の媛小春」魅力アップ協議会員 (56人)	連携 機関	—	
普及指導 内容	○「媛小春」の安定生産技術確立に向け、植物調整剤を利用した着果率向上効果を検討するため、ジベレリン液剤を散布した。 ○また、管内生産者のほ場巡回を通じて着花等の状況を調査し、着花状況にあわせて着果率の向上を図るよう指導した。			
結果と 今後	○実証試験は、生理落果後の7月に落果防止効果を調査し、来年1月に果実品質への影響を確認して、結果を協議会員へ提供する。 ○今年の着花は、裏年であった昨年より多いものの、園地によるばらつきがあり、少ない傾向にある。 ○今後は今春に苗木を導入した生産者も多いことから、定期的なほ場巡回を実施し、早期成園化につながる苗木の管理や着果確保の指導に努める。			



今年の着花状況



着花の少ない樹へ
ジベレリン液剤を散布

【 ジベレリン液剤 】

植物調整剤として落果防止を
目的に散布。使用時期は開花始
め～満開10日後。

標 題		新規就農者への巡回指導		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日		令和7年5月12日～16日		場所	八幡浜市川上、真穴、保内、向灘、三瓶地区
指導対象		新規就農者（12人）		連携機関	JAにしうわ、八幡浜市、西予市
普及指導内容		○当室では、新規就農者が孤立せずに営農を継続できるよう継続的なサポート体制を構築し、地域内で安心して定着できる環境づくりを目指している。 ○これまで、経営開始資金の受給者に対して8～9月と1～2月に巡回指導を実施していたが、今回は、就農間もない時期である5月に、作業の進捗確認、技術的な助言、生活・経営の悩み相談等について、関係機関とともに巡回指導を行った。			
結果と今後		○新規就農者からは「芽花管理」や「苗木の管理」など栽培に関する質問があり、園地で実際の樹を見ながら指導した。 ○また、生活全般や農地の確保、地元住民との関わり方についても相談があり、関係機関で共有のうえ、個別に対応した。 ○今後は、年3回の巡回指導と年2回の新規就農者の交流会を実施し、アフターフォローを行うとともに、新規就農者の意向をアンケート等で把握しながら、より効果的な支援の方法を検討していく。			





左: 芽花管理についての栽培指導

右: 三瓶で就農した新規就農者に対して指導を行う様子

標 題	着果過多対策を目的とした摘果剤の使用について指導		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和7年5月22日	場所	伊方町三崎地区	
指導対象	三崎地区かんきつ生産者（27人）	連携機関	JAにしうわ	
普及指導内容	○令和7年産の当地区のかんきつは着果過多が予想されており、摘果作業の遅れによる小玉果の増加が懸念されていることから、中晩柑の生産者に対し、摘果剤の効果的な使用について指導した。 ○使用にあたっては、樹冠内部や下部の品質が劣る果実に散布するほか、適期（散布日から数日間の最高気温が25～30℃）に散布すること等を指導した。			
結果と今後	○当地区は、これまで摘果剤を使用したことのない生産者が多かったが、摘果作業を効率的に進めるために、今年は摘果剤を使用したいとの声が聞かれた。 ○今後、7月頃に早期摘果、8月頃に仕上げ摘果の講習会を予定しており、連年安定生産を目指した指導を行う。			





左：摘果剤の特徴や使用方法について説明

右：背負いの噴霧器を使って実技指導

標 題	「農家の若造」今年度は中学生とサツマイモづくりに挑む！遊休農地再生プロジェクト		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班
年月日	令和7年5月12日	場所	内子町立石	
指導対象	内子町青年農業者協議会員（14人）	連携機関	内子町農村支援センター JA 愛媛たいき	
普及指導内容	○当協議会（愛称：農家の若造）が令和4年度から取り組んでいる「遊休農地再生プロジェクト」の一環として、遊休農地23aにおいて、地元中学生と連携したサツマイモづくりに取り組むことになり、会員らが草刈りや耕うん作業を行った。 ○当班は、作業中の事故防止や効率的な作業方法について指導するとともに、中学生が安全に作業に取り組めるよう、会員に対して農作業の注意点や道具の使い方等について再確認するなど指導を徹底した。			
結果と今後	○栽培したサツマイモは収穫後、町内の女性組織と連携し、加工品開発・製造に取り組む計画である。 ○当班は、地元中学生等への農業の理解促進に向けた活動や、地元農産物の有効活用の取組み等について、引き続き支援していく。			
 草刈り（左）、耕うん（右）作業				

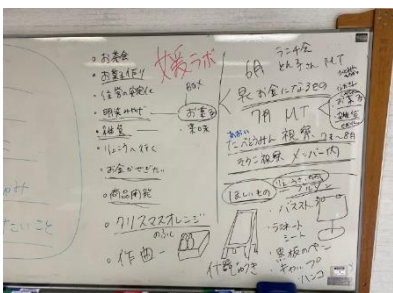
標 題	キウイフルーツの花粉使用量削減に向けた 現地実証		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班
年月日	令和 7 年 5 月 22 日 (木)	場所	大洲市久米	
指導対象	キウイフルーツ農家 1 戸	連携 機関	JA 愛媛たいき、果樹研究センター	
普及指導 内容	○近年、キウイフルーツ人工授粉用花粉の価格高騰による生産資材コストの上昇が課題 となっているため、新たに開発された静電風圧式受粉機による花粉使用量の削減効果 を検討する現地実証ほを設置した。 ○従前の受粉作業と比較するため、①風圧区（慣行）、②溶液区（慣行）、③静電区の 3 区を設けて受粉作業を行い、花粉使用量を調査した。			
結果と 今後	○静電区の花粉使用量は、風圧区の 58%、溶液区の 20% となり、大幅な削減効果が認め られた。 ○一方で、静電風圧式受粉機は、散布レバーを握ってから噴霧されるまでに時間差があ るため、使用には慣れが必要であることや、従来の受粉方法に比べて時間がかかるこ と、受粉の良否が目視で判別しづらいなどの課題が残ったため、散布方法や花粉噴霧 量のさらなる検討が必要である。 ○今後は、果実肥大や品質に及ぼす影響を調査する。			



左：静電風圧受粉機使用図

右：②溶液区、③静電区
受粉花比較

標 題	女性農業者の活躍を目指して		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班
年月日	令和 7 年 5 月 12 日	場所	西予市狩江地域づくり活動センター	
指導対象	フレッシュあぐり媛～YATTE-MIYO☆LAB～（9 人）	連携機関		
普及指導内容	○農業女子のつながりを深め、日常の困りごとを助け合える仲間づくりを目的とした西予市内の農業女子グループ「フレッシュあぐり媛～YATTE-MIYO☆LAB～」の総会開催を支援し、今後の活動について協議した。 ○当班からは、かんきつ栽培技術や経営管理能力の向上に資する研修内容や、加工品開発及び他地域グループとの交流会の設定など、具体的な活動を提案した。			
結果と今後	○活動協議では、会員の興味があることや実践してみたいことについて積極的な意見交換ができ、会員の自主性に基づいた協議ができた。 ○今後は、農家女性リーダーとしての資質向上も図るため定期的な支援に取り組む。			

左：今後の活動について意見交換

右：活動についての検討内容

標 題	有名パティシエの産地アテンド in 城川		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班
年月日	令和 7 年 5 月 12 日	場所	味彩（株）、（株）城川ファクトリー	
指導対象	味彩（株）、（株）城川ファクトリー	連携機関	食ブランドマーケティング課	
普及指導内容	○県産農産物の販路拡大と実需の創出を目的に、東京の有名洋菓子店のパティシエら他 2 名に対し、西予市城川町の（株）味彩、（株）城川ファクトリーを案内、産地視察及び商談を行った。 ○2 社で製造している加工品（ゆず果汁、マーマレード、和栗ペースト等）及び城川産ゆず・栗の栽培の特徴を紹介した。			
結果と今後	○パティシエらは、新たな商品開発素材としての可能性を見出そうと、ゆず・栗の在庫量や品質管理、加工工程等について、積極的に質問、確認を行った。 ○和栗ペーストについては、全員が興味を示し、同席したパン職人、ケーキ職人からは、早速注文があり、継続的な取引が期待できるものとなった。 ○今後、パティシエ等の希望する数量や要望等に即応できるよう積極的な情報収集に努め、関係機関と連携を密にして事業者を支援していく。			
  パティシエとの協議・商談風景				

標 題	西予地区のさといもの栽培管理の意識統一		機関名	八幡浜支局産地戦略推進室
年月日	令和 7 年 5 月 29 日	場所	西予市野村地区	
指導対象	JA 東宇和さといも生産者（25 人）	連携機関	JA ひがしうわ 農林水産研究所、農産園芸課	
普及指導内容	○令和 7 年産さといもにおける今後の栽培管理のポイント等について生産者の意識統一を図るため、JA と連携して現地研修会を開催した。 ○管内の生産状況を JA が、実証ほ等の取組状況を当室が説明後、農林水産研究所が除草や土寄せ、かん水、芽の処理等の管理ポイントについて説明した。			
結果と今後	○降雨のため、予定していた乗用管理機による土寄せ等の実演を中止したが、研修会終了後、生産者から芽の処理方法に関する具体的な質問が寄せられたため、実演を交えて説明を行い、多くの生産者が熱心に見学し、その関心の高さがうかがわれた。 ○今後、関係機関と連携しながら管内 13 名の新規生産者を中心に定期的な巡回指導を行うなど、生産技術の向上と産地拡大に向けサポートしていく。			



県担当者からの説明



芽の処理方法の実演



標 題	麦の採種ほ審査（Ⅱ期）の実施		機関名	農産園芸課 高度普及推進グループ
年月日	令和7年5月7日、8日	場所	中予管内採種ほ場（170 ほ場）	
指導対象	伊予地区種子生産協議会	連携 機関	JA（全農、松山市、えひめ中央） 中予局農業振興課、農林水産研究所	
普及指導 内容	○麦の優良種子生産のため、松前町と伊予市に、奨励品種「ハルヒメボシ」の採種ほ場が設置されている。 ○今回はⅡ期審査として、糊熟期に種子検査員が各ほ場を巡回し、ほ場審査を実施。 ○後日、審査結果と各ほ場の収穫時期を関係機関と共有し、今後の収穫及び共同乾燥調製施設への搬入時期について協議した。			
結果と今後	○一部のほ場で病害が発生したが、おおむね合格となった。 ○今後の天候を勘案しながら、計画的に、収穫及び共同乾燥調製施設への搬入を行うことを申し合わせた。			

【ほ場審査】

奨励品種のうち、種子場 JA から所管地方局に、ほ場設置の届出と審査請求のあった品種について、種子検査員（農林水産研究所、農産園芸課、地方局農業振興課）が、種子生産者、県米麦振興協会、種子場 JA 立ち合いの上、実施している。



左：黒穂病に罹病した穂

■■■ 情報の問合せ先一覧表 ■■■

機関名	所在地および連絡先
東予地方局農林水産振興部 農業振興課	西条市丹原町池田 1611 TEL:0898-68-7322 FAX:0898-68-3056
東予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 四国中央農業指導班	四国中央市中之庄町 1684-4 TEL:0896-23-2394 FAX:0896-24-3697
東予地方局農林水産振興部 今治支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	今治市旭町 1-4-9 TEL:0898-23-2570 FAX:0898-22-9724
東予地方局農林水産振興部 今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班	今治市伯方町木浦甲 4637-3 TEL:0897-72-2325 FAX:0897-72-1912
中予地方局農林水産振興部 農業振興課	松山市北持田町 132 TEL:089-909-8762 FAX:089-909-8395
中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 久万高原農業指導班	上浮穴郡久万高原町入野 263 TEL:0892-21-0314 FAX:0892-21-2592
中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 伊予農業指導班	伊予市市場 127-1 TEL:089-982-0477 FAX:089-983-2313
南予地方局農林水産振興部 農業振興課	宇和島市天神町 7-1 TEL:0895-22-5211 FAX:0895-22-1881
南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 鬼北農業指導班	北宇和郡鬼北町興野々1880 TEL:0895-45-0037 FAX:0895-45-3152
南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 愛南農業指導班	南宇和郡愛南町城辺甲 2420 TEL:0895-72-0149 FAX:0895-73-0319
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	八幡浜市北浜 1-3-37 TEL:0894-23-0163 FAX:0894-23-1853
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班	大洲市田口甲 425-1 TEL:0893-24-4125 FAX:0893-24-5284
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班	西予市宇和町卯之町 3-434 TEL:0894-62-0407 FAX:0894-62-5543